

学生懇談会の報告

日時：2024年12月8日（水）12：35～13：05

司会：森本一彦（文学部教授）

参加者：密教学科3名（1、3、4年生）

意見・感想

授業が大きく2分されているように感じる。学生のレベルに合わせた授業と、研究者レベルを維持する授業である。

前者は学生が知らなければならない基本事項についても確認をしながら、授業を進める。またテーマの説明だけではなく、資料の収集方法（インターネットや図書館の検索など）や分析方法などについても説明してくれ、レポートや卒業論文の作成に活かせるように配慮してくれる授業もある。

一方、後者は、基本事項については事前に知っている前提で授業を進める。後者は自分の論文の説明に始終していることが多く、学問的位置づけなどの説明がない場合がある。

授業にはついていけており、ある程度理解しており、単位は取得できているが、本当に力になっているのは不安である。

教学実習や華道、茶道などの実技といった特別な授業があり、特徴的である一方、いろいろな学生がいるために授業の雰囲気が緩くなっている場合もある。

入学した時に、高校との違いに戸惑いを感じた。授業内容が高度になるというだけでなく、高校の方が教授法においては丁寧であった。入学直後の導入が大切だと思う。高校では語句の説明を丁寧にしてくれる。

基礎ゼミは高校との連結という点では重要である。入学直後に、レポートの書き方や基本事項の説明をしてくれるのは助かる。5～6人の少数教育は効果があると思う。導入研修から基礎ゼミへと連動していくことがいいのではないかな。また高校と大学とのワンクッションになっており、大学に慣れる場所でもある。その意味では、高校にもあった英語などの授業も同様の機能を果たしていると思う。

キャリアデザインの意味はあると思うが、自分の意見を発表することを嫌がったり、個人情報を他人に知られたくなかったりする人が一定数おり、必修であることは再検討すべきである。

一般常識を欠いた学生が一定数おり、さらに高野山の僧侶の限定された世界にいて、ビジネスマナーや礼儀作法を知らずに、卒業していく学生がいる。卒業後、外の世界でハラスメントや人権問題を起こす可能性あるのではと心配する。キャリア支援の一環として、マナー教育もしていくべきである。

寺院経営論では僧侶としての実際を説明してくれるので参考になる。

外部との交流が極端に少ないことも問題がある。人との交流を拒絶する傾向の学生も一定数いることも問題である。外部と交流することで、高野山大学の常識を見直す機会となった例もある。

大学を活性化させる一歩として、昼休みに学生に学内にとどまらせることが重要である。そのためには、食堂を充実させる（味やメニューなど）とともに、購買部も復活させるべきである。食堂の質が高ければ利用者は増えるのではないかな。昼食難民の救済にもなる。

昼休みの時間が短いために、寺生の午後の授業に影響を与えているので、時間を長くするように検討してはどうか。朝礼なども含めて、時間帯の検討してほしい。

夕食についても検討すべきである。たとえば冷凍弁当などの自動販売機の設置などを検討してもよいのではないかな。

学生の施設利用についても、部活動でしか利用できないために、無理をして部を新設しているが、もう少し柔軟に対応してほしい。そうすることで、学生の活動が活性化すると考えられる。